

# 本 会 報

## 学会だより

### ◇ 幹事会

開催日：平成 15 年 9 月 18 日 14：00～18：00

会 場：神戸大学農学部 A 棟大会議室

出席者：新発田修治，大澤勝次，沢田壮兵，江頭宏昌，新関稔，吉田薫，平野久，堤伸浩，高野哲夫，平田豊，荻原保成，笹隈哲夫，川上直人，長戸康郎，門脇光一，佐々英徳，藤村達人，山元皓二，倉田のり，松岡信，村井耕二，長谷川博，谷坂隆俊，森川利信，石井尊生，前川雅彦，田原誠，富田因則，山口聰，吉村淳，松岡誠，矢野昌裕，中村郁郎，貴島祐治，渡邊和男，根本博，佐野芳雄，喜多村啓介

委任状：高畑義人，横尾政雄，原田久也，高岩文雄，久保山勉，島田多喜子，佐藤光，古庄雅彦，井出雄二，山本義雄，木庭卓人

## 報告

### 庶務

- (1) 会員数は 8 月 31 日現在，名誉会員 9 名，個人会員 1991 名であり，団体会員，海外会員および賛助会員を合わせた総数は 2421 名である。
- (2) 平成 15 年度科研費補助金研究成果公開促進費，(1) 学術定期刊行物（一般欧文誌）(210 万円)，(2) 研究成果公開発表 (B) (145 万円) が採択されたことを報告した。
- (3) 幹事の投票により決定した平成 16 年度の科研費審査委員候補者について育種学会から推薦した人数を公表した。

### 会計

平成 14 年度の間接決算が報告され，承認された。

### 英文雑誌

Breeding Science 53 巻の編集状況が報告された。

### 和文雑誌

育種学研究第 5 巻の編集状況が報告された。

### 集会

平成 15 年春季大会（千葉大学）での講演総数は 300 題（内 1 題取り消し）であった。秋季大会（神戸大学）での講演総数は 331 題（内 3 題取り消し）であった。平成 16 年春季大会は東京大学農学部（委員長：長戸康郎氏）3 月 29 日から 31 日の日程で行われることが確認された。

### ホームページ

円滑な情報伝達のため，今後ますますホームページへ情報の掲載を行うとした。

## 議題

- (1) 平成 15 年度日本育種学会賞の選定：学会賞選考委員会および幹事会の議を経て次の 2 件が選ばれた。
  - ・平野久（横浜市立大学）：植物タンパク質の構造と機能に関する遺伝育種学的研究
  - ・茨城県農業総合センター生物工学研究所 普通作育種研究室陸稲育種（指定試験）グループ（代表：平澤秀雄）：栽培特性と広域適応性に優れ，東北から関東地方にかけて広く普及した陸稲極早稲糯品種「トヨハタモチ」および日印交配による耐干性極強・食味極良の画期的な中生糯品種「ゆめのはたもち」の育成
- (2) 平成 15 年度日本育種学会奨励賞の選定：学会賞選考委員会および幹事会の議を経て次の 2 件が選ばれた。
  - ・芦荊基行（名古屋大学）：イネ矮性の発現機構に関する分子遺伝学的研究
  - ・久保山勉（茨城大学）：交雑不親和性にみられる花粉管伸長阻害現象の研究
- (3) 平成 15 年度日本農学賞候補の選定：学会賞選考委員会および幹事会の議を経て，武田和義氏が候補として選ばれた。
- (4) 平成 16 年度春季大会は三重大学で平成 16 年 9 月 20 日（月）～22 日（水）に開催されることが認められた。
- (5) 平成 15 年度 53 巻から実施する論文賞の選考手続きについての説明を行い，そのための内規案が認められた。
- (6) 賛助会員に属する個人の学会参加費を普通会員と同額にする内規案が認められた。
- (7) 平成 17 年につくばで開催する SABRAO 大会（8 月 18 日～23 日）を育種学会と合同で行うことが正式に認められた。育種学会が SABRAO 大会を全面的に支援するため，平成 17 年春季大会は行わないこととなった。
- (8) 学会の開催形式（年間回数等）を再検討するために結成されたワーキンググループの意見が長戸康郎委員長（東大）から報告され，年 2 回の現体制を維持すべきとの結論が出された。聞き取り調査の結果，会員の多く（特に学生会員）は年 2 回を希望していることが明らかにされた。その他，幹事会の年 1 回開催，ペーパーレス化の推進，総会の簡素化を図る一方，研究発表の時間延長（15 分）等を検討すべきとの答申がなされた。

## 関連報告

- (1) 育種学研究連絡委員会：19 期学術会議の育種学研究連絡委員会（候補者）として 13 名（うち育種学会員：6 名）

を推薦した。遺伝資源研究連絡委員会では8名(うち育種学会員:4名)を推薦した。

(2) GMO委員会:11月末に文部科学省から「組換えDNA実験指針」が法制化されるとの報告があった。違反行為については罰則が適用される。

(3) 植物育種学辞典委員会:進捗状況等が報告された。

(4) JABEEについて:平田氏(東京農工大学)から現状と今後の対応が説明された。その中で、育種学会において審査員資格者の確保と育種学カリキュラム内容の再検討の必要性が確認された。

#### その他

(1) 名誉会員の推戴に関しては条件を決めることなどの問題が指摘されており、今後の課題として検討を続ける。

### ◇ 次期幹事選挙に関するお詫びと対応について

皆様のご協力により、次期幹事の選挙を実施いたしました。選挙期間中に前幹事から、幹事の選挙についての内規は平成13年の秋季幹事会(九州大学)において改正されているとの指摘を受けました。事実、選挙は改正前の旧内規に基づいたもので、新しい内規に一部そぐわない点がある事がわかりました。

本内規は前幹事会のご努力で決定された重要な案件であります。もとより、内規に基づいて再選挙を行うことが最善だと常任幹事会では認識しております。しかし、名簿の確認作業や選挙の通達および再投票の実施などを考えあわせると準備には相当な時間を要し、後の会長選挙と副会長選挙に大幅な遅れが生じ、学会運営に支障をきたすことが予想されました。幹事全員にメールを通じてこの問題をお諮りし、その対応を検討していただいた結果、今回に限り、旧来の選挙要領を踏襲することになりました。この経緯の詳細については、既にホームページにおいて会員の皆様にお知らせしております。

皆様には、この度の不手際につきまして大変ご迷惑をおかけすることになってしまいましたこと、心よりお詫び申し上げます。今後こうした事態を招かないように、最善を尽くしていきたいと存じます。

日本育種学会  
会長 佐野芳雄

### 研究助成公募の案内

#### ◇ 財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 平成16年度研究助成対象者募集

研究課題:穀類並びに豆類の栽培・育種に関する研究、穀類並びに豆類の品質・成分並びに栄養生理等に関する研究、穀類並びに豆類の利用及び加工技術に関する研究、納豆菌等微生物の特性・生成酵素等に関する研究  
助成対象:大学及び短大の研究者(大学院生も含む)、国・

公立試験研究機関の研究者等

助成金額:一般研究者1件100万円を5件程度、若手研究者(昭和39年4月1日以降に生まれた者)1件50万円を5件程度

交付時期:平成16年5月予定

申請手続き:財団所定の申請用紙に必要事項を記入し、平成16年3月20日(必着)。申請用紙は郵送用切手(140円)同封のこと。

申請書請求先及び送付先:〒311-3411 茨城県東茨城郡小川町野田字大沼頭1542,(財)タカノ農芸化学研究助成財団 タカノフーズ(株)内 財団事務局 TEL:0299-58-4363 FAX:0298-58-4376 E-mail:tkzaidan@giga.ocn.ne.jp

### 談話会だより

#### ◇ 北陸育種談話会:北陸支部平成14年度総会、第40回講演会、第6回北陸作物学会賞授賞式・記念講演およびシンポジウム(北陸育種談話会と共催)

平成15年7月25日(金)・26日(土) 於 石川県農業総合研究センター(1)総会,(2)北陸作物学会賞授賞式・記念講演。「こしいぶき」育成グループ(新潟県農業総合研究所作物研究センター)新しい選抜法による高温登熟性に優れた良食味水稲早生品種「こしいぶき」の育成(学術賞),(3)シンポジウム,司会:下坪訓次(富山県立大学短期大学部)・鈴木正一(石川県農業短期大学)1 福井県における直播10年間の推移:北倉芳忠(福井県農業試験場),2 石川県における直播技術の進展と今後について:国立卓生(石川県農業総合研究センター),3 普及現場から見た富山県の直播栽培について:川口祐男(富山県農林水産部),4 不耕起V溝直播栽培の開発と普及:濱田千裕(愛知県農業試験場),5 総合討論,(4)一般講演 水稲新品種「石川43号」の育成と奨励品種採用:中村啓二<sup>1)</sup>・黒田晃<sup>1)</sup>・橋本良一<sup>2)</sup>・猪野雅哉<sup>3)</sup>・永島秀樹<sup>1)</sup>・高橋裕章<sup>3)</sup>・大西良祐<sup>4)</sup>・松村洋一<sup>1)</sup>・松本範裕<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>石川県農業総合研究センター・<sup>2)</sup>財団法人石川21世紀農業育成機構・<sup>3)</sup>津幡農林総合事務所・<sup>4)</sup>羽咋農林総合事務所・<sup>5)</sup>元石川県農業総合試験場)しめ縄加工に適する新たなイネ遺伝資源「伊勢錦」の選出:河合由起子<sup>1)</sup>・小林和幸<sup>1)</sup>・平尾賢一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>新潟県農業総合研究所作物研究センター・<sup>2)</sup>新潟県農業大学校)イネの耐冷性モデルの構築:加藤昌和<sup>1)</sup>・井上直人<sup>1)</sup>・後藤和美<sup>2)</sup>・谷口岳志<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>信州大学農学部・<sup>2)</sup>長野県農事試験場)2002年産コシヒカリ種子の休眠について:佐藤徹・川上修・長澤裕滋(新潟県農業総合研究所作物研究センター)人工高温登熟条件下における早生水稲の品質低下の品種間差:永島秀樹・黒田晃(石川県農業総合研究センター)人工高温登熟条件下における早生水稲の乾物生産および窒素吸収:永島秀樹・黒田晃(石川県農業総合研究センター)水稲の葉鞘及び桿への非構造化炭

水化物蓄積に対する緩慢な窒素吸収の影響:塚口直史<sup>1)</sup>・土田徹<sup>2)</sup> (1)新潟大学農学部・<sup>2)</sup>新潟県農業総合研究所作物研究センター) / 稲体生育量と登熟気温が食味に及ぼす影響:金高正典<sup>1)</sup>・高橋敦子<sup>1)</sup>・佐藤徹<sup>1)</sup>・有坂通展<sup>2)</sup> (1)新潟県農業総合研究所作物研究センター・<sup>2)</sup>新潟県経営普及課) / 水稲の無農薬栽培における Weed Control:鯨幸夫・小村由希・登内良太(金沢大学教育学部) / 水稲栽培における8葉期中干しが根系生育に及ぼす影響:鯨幸夫・今村恵理・辰尻彦彦(金沢大学教育学部・JA入善新屋支所) / 飼料用イネ六条大麦の2年3作体系の確立:湯川智行<sup>1)</sup>・佐々木良治<sup>1)</sup>・元林浩太<sup>1)</sup>・土田志郎<sup>1)</sup>・松村修<sup>1)</sup>・亀川健一<sup>1)</sup>・大嶺政朗<sup>1)</sup>・伊藤誠治<sup>1)</sup>・市川岳史<sup>2)</sup>・光野均<sup>3)</sup>・関誠<sup>4)</sup> (1)中央農業総合研究センター北陸研究センター・<sup>2)</sup>新潟県農業総合研究所作物研究センター・<sup>3)</sup>新潟県農業総合研究所・<sup>4)</sup>新潟県畜産研究センター) / ギョウジャニンニクの葉形変異:鈴木正一(石川県農業短期大学) / ライムギ, エンバクリボソーム不活性化タバク質遺伝子を導入した組換えイネの閉鎖系での環境に対する安全性評価:青木秀之<sup>1)</sup>・廣瀬二郎<sup>1)</sup>・中島敏彦<sup>2)</sup>・山本剛<sup>1)</sup>・森浩一<sup>1)</sup>・園田亮一<sup>1)</sup>・平八重一之<sup>1)</sup>・重宗明子<sup>1)</sup>・矢頭治<sup>1)</sup> (1)中央農業総合研究センター北陸研究センター・<sup>2)</sup>東北農業研究センター) / 耐病性組換えイネを作出する目的でのCaMV35Sプロモーターとマツ・Cab1プロモーターの発現制御特性の比較:矢頭治・青木秀之・重宗明子(中央農業総合研究センター北陸研究センター) / 遺伝子組換えによる糯性デンプンを有するサツマイモの作出:大谷基泰・濱田達朗・島田多喜子(石川県農業短期大学付属農業資源研究所) / ウニコナゾールP処理と反射シートがダイズ収量に及ぼす影響:池田武・三浦晃子(新潟大学農学部) / ダイズの着莢, 物質生産経過と収量, 青立ち症状の関連性:井上健一(福井県農業試験場) / 耕種方法および培土の有無が大豆の収量および品質に与える影響:高橋正樹(福井県農業試験場) / 高品質大豆生産のための栽培管理実態と収量との関係把握:松田豊治(福井県坂井農林総合事務所) / 土壌及び有機質資材からのエチレン生成能の比較:沼田泰宜・井上直人(信州大学農学部) / 5-アミノレブリン酸(5-ALA)の生理活性に関する研究—アルカリ土壌に生育するコマツナの生育改善—:福田泰久<sup>1)</sup>・渡邊繁幸<sup>2)</sup>・田中徹<sup>2)</sup>・葭田隆治<sup>1)</sup> (1)富山県立大学短期大学部, <sup>2)</sup>コスモ石油中央研究所) / 播種期がダイズの生育収量に及ぼす影響:松崎守夫・細川寿・高橋智紀(中央農業総合研究センター北陸研究センター) / 株元施肥, 分肥が夏まきキャベツに及ぼす影響:松崎守夫・亀川健一・高橋智紀・細川寿(中央農業総合研究センター北陸研究センター) / 準高冷地におけるイタリアンライグラスの多刈適性:兀下大輔<sup>1)</sup>・春日重光<sup>1)</sup>・五十嵐弘昭<sup>2)</sup>・野宮桂<sup>1)</sup>・酒井芳夫<sup>1)</sup>・小川淳<sup>1)</sup>・橋本めぐみ<sup>1)</sup> (1)信州大学農学部付属AFC・<sup>2)</sup>日本総業株式会社) / 市販スーダングラスの再生性, 耐病性及自殖稔性に関する特性評価:野

宮桂・春日重光(信州大学農学部) / ソルガムの細胞質雄性不稔系統に発生する小穂形成不全の育種改良の可能性について:春日重光・野宮桂(信州大学農学部付属AFC / *Amarantus hypochondriacus*の異なる日長条件下における出穂反応について:山戸潤<sup>1)</sup>・南峰夫<sup>1)</sup>・松島憲一<sup>1)</sup>・根本和洋<sup>2)</sup> (1)信州大学農学研究科・<sup>2)</sup>信州大学応用生命科学科) / 粒大選種が普通ソバの生育と収量に及ぼす影響:萩原素之・山崎永一(信州大学農学部) / ダツタンソバ粉の活性酸素消去能は品種の原産地の標高で異なる:藤田かおり<sup>1)</sup>・井上直人<sup>1)</sup>・楊重法<sup>1)</sup>・菘原昌司<sup>2)</sup> (1)信州大学農学部・<sup>2)</sup>食品総合研究所) / ソバ粉における化学成分の環境変異の解析:井上直人・上原周平(信州大学農学部) / 耐寒性を持つ加熱後胚乳色相の優れた早熟多収食用大麦品種の開発:細野哲・牛山智彦・前島秀和・谷口岳志(長野県農事試験場)

## 日本育種学会会員異動 (2003.7.19 ~ 2003.10.20)

◇ 普通会員入会:天野洋一, 安田慎一(北海道), Perumal Azhaguvel, Gilda Jonson-Milanda, 許東河, 喜多正幸(茨城), 関和孝博, 渡邊修孝(栃木), 宮澤豊(埼玉), 高橋秀行(東京), 河野(村瀬)淳子, 森野和子(新潟), 宝田研(富山), 森田明雄, 山田栄成(静岡), 春原英彦, 吉田朋史(愛知), 森利樹(三重), 鈴木一, 西川公一郎(岡山), Rafman Shanikh Mizanur, 高橋美佐(広島), 今井篤(長崎), 斎藤彰(熊本), Efendi(沖縄)

◇ 学生会員入会:小出陽平, 高田美和子(北海道), 今井克則(青森), 朴鐘璘, 箱崎宏和(岩手), 奥崎文子, 小宮怜奈, 武藤景子(宮城), Antonio Garcia Lalusin, 小屋綾子, 五月女望, 島岡洋介(茨城), 鄭凡喜(栃木), 泉川康博, 高橋弘子(千葉), Socty Chan, Nozawa Gloria Toshie, 相田P.元, 五十嵐知之, 榎戸彩子, 鈴木一正, 藤本優, 森麻奈(東京), Amr Farouk Abdelkhalik, 菊池幹之, 小西省吾, 鈴木雄介(神奈川), 阿部立也, 梅津将行, 合田梢, 白井唯之介, 水落仁, 吉川敦士(新潟), 武藤千秋(静岡), 今村講平(愛知), 藤山佳代(滋賀), 佐伯泰子, 佐山貴司, 畑中一郎, 山本康二(京都), 劉海波, 栗山怜(大阪), Naydenov Nayden Gueotguier, 岡田和馬, 川村雅志, 岸田匡, 小林史典, 守谷友紀, 綿谷浩之, 渡辺順平(兵庫), 中野亜紀子(奈良), 城野浩希(鳥取), 大坂卓也(岡山), 松永孝幸(熊本), 権藤崇裕, 橋口正嗣(宮崎), 仮谷博敬(鹿児島)

◇ 外国会員入会:Rice Research and Training Center (EGYPT)

## 住所変更等

◇ 普通会員:小沢憲二郎, 高田寛之, 横上晴郁(北海道), 小田中浩哉, 星伸枝(岩手), 白井建史, 村山誠治, 奥野員敏(茨城), 土井芳憲(埼玉), 矢野健太郎, 石川恵子(千葉), 大同久明(東京), 武田元吉(神奈川), 濱

絵里子（石川），上田高則（静岡），松岡信（愛知）塚崎光（三重），岩城一考（滋賀），佐藤洋一郎，湯口雅大（京都），長野美緒（和歌山），荒木悦子（広島），岸井正浩（鳥取），古庄雅彦（福岡）

◇ 学生会員：Hossain Md. Shakhawat（茨城），藤山佳代（滋賀），岩尾純子（香川）

◇ 団体会員：青森県農林総合研究センターグリーンバイオセンター（青森）丸善（株）川崎 SRC 卸海外営業部

（神奈川），独立行政法人種苗管理センター西日本農場（岡山）

◇ 外国会員：Kenichi Tanno（FRANCE），梁正偉（中華人民共和国）

### 逝去

佐藤茂俊（琉球大学農学部，沖縄）